



代表者挨拶

慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-

代表者 福井 聖（滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科 病院教授）

病院や診療所を受診するきっかけとなる症状のうち、最も多い症状が身体の「痛み」です。「慢性の痛み」は、患者本人を苦しめるだけでなく、家族や会社など社会にとっても重荷となり世界的に問題となっています。本邦では平成22年度にまとめられた「今後の慢性の痛み対策について（提言）」をもとに、研究や教育に関する様々な取り組みが行われてまいりました。中でも、慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業（以下モデル事業）は、地域における医療連携体制を構築することを目標として、平成29年度から全国8地域で行われています。近畿地区のモデル事業では、慢性の痛みの様々な領域で取り組み進めてきました。

| 事業名 | 事業内容 | 代表 |
|-----------|--------------------|-------------------------|
| 産業界 | 産業界で発生する慢性疼痛診療連携事業 | 北原照代（滋賀医科大学医学部附属病院） |
| 開業医 | 開業医との慢性疼痛診療連携事業 | 田中浩一（田中整形外科） |
| 心療内科 | 心療内科による慢性疼痛診療連携事業 | 水野泰行（関西医科大学附属病院） |
| 集学的診療 | 慢性疼痛に対する集学的診療推進事業 | 高橋紀代（千里山病院） |
| 頭痛診療 | 慢性頭痛の診療推進事業 | 竹島多賀夫（富永病院頭痛センター） |
| インターベンション | インターベンションの診療連携推進事業 | 松田陽一（大阪大学医学部附属病院） |
| 歯科医療 | 歯科・口腔外科の診療連携事業 | 石垣尚一（大阪大学歯学部附属病院） |
| 地域医療介護連携 | デイケア・在宅医療等の診療連携事業 | 中塚映政（なかつか整形外科リハビリクリニック） |

事業ごとに年間1-2回のセミナーを開催し、それぞれの領域における痛みに関する課題を共有し、経験豊富な施設や医療者の取り組みを学ぶ機会や問題解決に向けて意見交換する機会を提供しております。

慢性疼痛の診療には、多職種による集学的な診療が重要ですが、本邦の医療体制は主に診療科ごとの縦割りの構造で、円滑な診療が困難であることが指摘されてまいりました。この問題を克服するために集学的痛みセンターの設置が望まれておりますが、近畿地区では本モデル事業に参加している以下の7つの施設が厚労省慢性疼痛政策研究班で正式に認定されました。

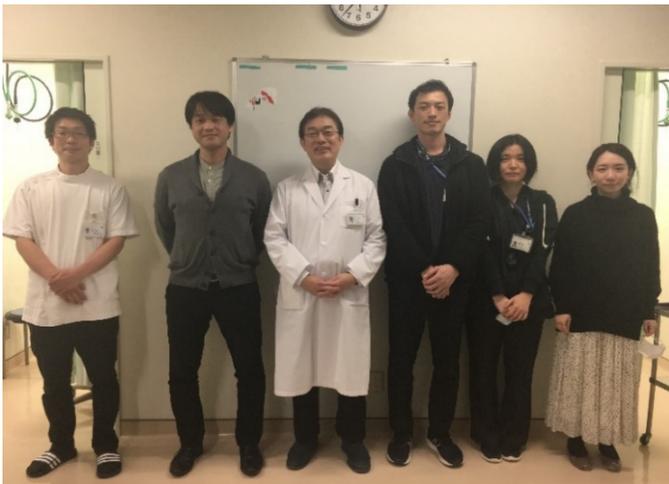
- ①滋賀医科大学医学部附属病院（学際的痛み治療センター）
- ②大阪大学医学部附属病院（疼痛治療センター）
- ③関西医科大学附属病院（痛みセンター）
- ④篤友会千里山病院（在宅医療センター）
- ⑤富永病院（頭痛センター）
- ⑥兵庫医科大学附属病院（ペインクリニック部）
- ⑦京都府立医科大学附属病院

今後の大きな課題として、労働年代における労働生産性の低下（医療経済的プレゼンティズム）や復職支援、超高齢化社会における健康寿命延伸があげられます。

近畿地区のモデル事業は、実施したセミナー数、セミナー参加者数、連携医療機関数のいずれにおいても多くの積んでまいりました。これらの機会を通して実際の診療連携にもつながっており高く評価されております。このような取り組みを均てん化していくことも重要な使命ととらえ今後も努力を重ねていく所存です。本事業の運営に多大なご協力、ご尽力を頂戴している皆様方にこの場を借りて深く御礼申し上げます。

施設紹介

滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科



滋賀医科大学医学部附属病院ペインクリニック科では、2013年に全国に先駆けて難治性慢性痛に対応する「学際的痛み治療センター」を開設しました。同センターは、厚生労働省「慢性の痛み対策研究事業」において設置された拠点病院の一つです。

当院では、腰痛・頸部痛などの運動器疼痛だけでなく、帯状疱疹後の神経痛、手術後の痛み、がんの痛みなど、慢性痛全般を対象としています。医師や看護師、理学療法士、公認心理師などの様々な専門性をもったスタッフが診療に携わり、慢性痛に対応しています。

学際的痛み治療センターでの初診では、看護師や理学療法士、公認心理師が問診を行い、患者の痛みの背景にある生物・心理・社会的要因を多面的に評価します。その後、多職種が参加する「痛みの学際的カンファレンス」を行い、患者の状況に最も適した治療方針を検討します。

主な治療内容としては、薬物療法（神経障害性疼痛や弱オピオイド鎮痛剤、漢方薬などの処方）や、インターベンショナル治療（神経ブロック療法、パルス高周波法など）、運動療法（理学療法士による運動指導）、認知行動療法（公認心理師によるカウンセリング、等）が挙げられます。最近では、産業医との連携を深め、慢性痛によって休職・退職した患者に対して運動療法と認知行動療法を組み合わせた復職プログラムを実施しています。心身両面から慢性痛の治療に取り組み、患者の生活の改善を目指しています。

篤友会 千里山病院 集学的痛みセンター

篤友会千里山病院は大阪府豊中市にある60床の内科病院です。当院の痛み診療は2015年に大阪大学病院疼痛センターから入院集学的リハビリテーション（以下、リハ）目的で慢性痛患者を受け入れたことが始まりです。当初は大学病院で入院適応を判断され、入院のみの介入でしたが、2017年には外来部門を新設し、外来、入院診療を行う集学的痛みセンターとしました。常勤医師2人、理学療法士9人、作業療法士2人、公認心理師2人、非常勤、理学療法士1人、臨床心理士1人と外来看護師で運営しています。対象は器質的疾患の有無にかかわらず、痛みのために医学的所見の割に生活の質の低下が大きく遷延している患者です。

初診時には、医師、理学療法士、作業療法士、心理士が評価を行い、カンファレンスにて治療方針を決めています。外来診療を継続しながら、当院の治療方針が理解でき、患者自身が目標設定できると入院に至ります。リハと心理療法などからなる3週間の入院プログラムを通して「痛くても動ける」「動いても痛みは増強しない」を実感して、退院後に復職したり、趣味を充実させたりと、生き生きと生活している患者さんが増えてきました。

治療介入だけでなく、初診の多職種による評価結果をもとに、紹介元に今後の治療方針の提案をすることもできます。長引く痛みで、必要以上に生活を制限している患者さんの診療でお困りの際には、遠慮なく、ご相談ください。



慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業近畿地区
ホームページ：<http://painkinki.html.xdomain.jp/>

